

就職みらい研究所の主な調査・コラム

※調査データは出典元を明記していただければ、基本的に無料でご利用いただけます
(例:「出典(調査名)リクルート 就職みらい研究所」)。
ご使用に際してTOPページ最下部(P23)「よくあるご質問／お問い合わせ」の問い合わせフォームよりご一報ください

『就職白書2022』シリーズ



『就職白書2022』関連の資料は、プレスリリース『就職白書2022』(データ集含め43ページ)、『就職白書2022 就職活動・採用活動の振り返りと今後の見通し』(24ページ)、『就職白書2022 学生と働く組織のより良いつながりに向けて』(46ページ)があります。

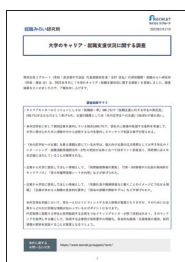
その他の調査



働きたい組織の特徴
働きたい組織について、学生に対立軸で志向性を調査。経営スタイルなどについて学生が企業に求める特徴が分かります。



大学生の地域間移動に関するレポート
大学所在地毎に出身地および就職予定先所在地との関係や、地元就職意向などを分析しています。



大学のキャリア・就職支援状況に関する調査
ミッション、キャリア・就職支援の課題、未内定学生への支援など、キャリアセンターの状況を調査しました。

就職プロセス調査



『就職プロセス調査』プレスリリースでは就職内定率(男女・文理・地域別)、進路確定率などをタイムリーに発信。また、就職活動TOPICSでは「理系の学科系統別で見る「専門性への評価」の違い」「就職活動にかかった費用」などテーマに沿って調査結果を分析し紹介しています。

コラム



これからの「働く」を考える
一般的な就職活動以外での企業との出会い方、起業という選択など多様な「働く」を考えるヒントを紹介しています。



保護者が知っておきたい就職活動に関するデータ12
就職環境の違い、スケジュールなど、保護者が知っておきたいデータを紹介しています。

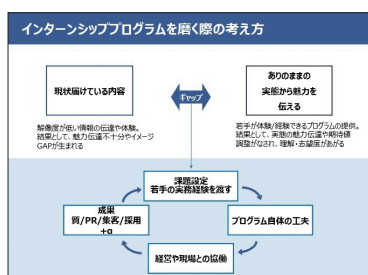
イベントレポート

2021年11月25日、石川県／いしかわ就職・定住サポートセンター(ILAC)と就職みらい研究所が協働で「インターンシップでリアルを伝えるための対話型セミナー」を実施。そのオンラインセミナーの内容を一部紹介します

「若手の実務経験を渡す」というコンセプトでプログラムを改善

インターンシップを通じて職場や仕事のリアルを伝えることで、学生は納得のうえ就職先を選ぶことができより良いマッチングにつながるが、学生が求める「企業のありのままの姿」を開示できている企業は少ない。そこで、今回の取り組みでは、「ありのままの事実を学生に伝える。そのために若手の実務経験を渡す」というコンセプトでプログラム改善を実施した。現状のインターンシップと実態とのギャップを洗い出し、「課題設定・若手の実務経験を渡す」→「プログラム自体の工夫」→「経営や現場との協業」→「成果」というサイクルをうまく循環させることを目指した。セミナーでは、石川県の「インターンシッププログラム改善支援事業」に参加した6社が、現状と理想のギャップをどのように認識し、プログラム改善し、またどのような成果を得られたのかを発表。プログラム内容を変えたことでターゲットとしている理系学生の応募が増えた、これまで見せたくないと思っていた部分で学生の好反応が得られた、若手社員が積極的に関わったことで分かりやすい内容になり現場との関係性も構築できた、などさまざまな効果が得られ、そのポイントをまとめた。

企業6社の事例共有の後は、セミナー参加者が3〜4名に分かれ、「自社のより良いインターンシップをグループ全員で考える」グループワークをオンラインで実施。コロナ禍で人事同士の交流が減る中、他社の人事の課題や取り組みを聞き、自社インターンシップ改善のポイントを考える機会になった(参加者の声は右記参照)。



石川県庁内の会場の様子。発表者以外の参加者は、全員オンラインからの参加。アンケートでは「非常に満足した」「満足した」の合計が約9割だった。

参加者の声

- **自社のインターンシップに今後取り入れたいと思ったポイント**
 - 現場社員の協力、入社後ギャップの解消法、仕事の因数分解。
 - 若手社員が経験する実務を体験してもらうこと、会社のありのままを見せること、現場・経営陣と協働し全社で取り組む。
 - インターンシップの担当や幹部だけでなく採用1年目、2年目の方の意見を参考にすること。
 - 部署間との関係性強化。学生へのフィードバック。
 - 協力的でない社員へのアプローチ方法。事前に仕事中等のムービーを作成し、模擬体験してもらう。
 - 環境が許せば、営業におけるかばん持ちなどの参加。
 - オンライン工場見学。
- **グループワークについて**
 - 成功している会社様だけでなく、悩んでいる人事担当同士で意見交換ができ、自分事として考えられた。
 - 少数で意見が相互に出やすかった。
 - 他の企業様の現状や取り組みなどが知れて、より具体的にインターンシップについて考えることができた。